

グループ活動中心の「毎週」のキャリア教育で いわゆる「平均的な生徒」の 積極的・主体的な行動を引き出す

3年間毎週取り組む キャリア教育の授業

ひと昔前まで校内秩序の乱れが目立っていた知立高校。10年前から身だしなみ指導の強化や授業規律の徹底などの学校改革を推進し、その結果、校内は落ち着いてきた。しかし、生徒の内面にはまだ物足りなさがあつたという。

「提出物をきちんと出すようなまじめで落ち着いた生徒が多いのですが、おとなしく消極的な面も。自分を高めるため積極的に行動したり、高い目標を掲げて努力する姿はあまり見られませんでした。こんな『平均的な生徒』をもっと伸ばすにはどうしたらいいかが課題でした」(教務主任・竹内道治先生)

内面に働きかける教育の必要を感じた同校は、「自らを高める」「社会に役立つ」人間の育成を目指して研究開発学校に挑戦。併設する商業科と情報処理科では従来よりキャリア教育を行っていたが、普通科には体系的な仕組みはなかったことから、2012年度から昨年度までの3年間、「普通科におけるキャリア教育」をテーマとする研究開発に取り組

んできた。

主な取り組み内容は、「総合的な学習の時間」と「情報」の代替による、学校設定教科「キャリアデザイン」の創設だ。ほぼゼロからの出発で、初年度の1学年「キャリアデザインⅠ」から学年進行で実施していき、14年度に3年間のプログラムが完成。担任と授業担当者の2人態勢により、1・2学年は週2回(2単位)、3学年は週1回(1単位)、キャリア教育の授業を行ってきた。

全員が役割意識をもて 発表機会のあるグループ学習

「キャリアデザイン」は学年ごとに「自分探し」「生き方の発見」「社会の中の自分」をテーマに掲げ、段階的なキャリア発達を図るプログラムだ(図1)。その内容は、「学問研究」や「資格と職業」、「志望校を考えよう」など、進路と関連する演習が中心となっている。また、情報収集やプレゼンテーション資料の作成など、「情報」の要素も取り入れている。

特徴的なのは、グループ学習を多用し、仲間をうまく活用している点だ。グループ学習を効果的に実施するため、同校

知立高校 の取り組み

目指す生徒像

- (1)人間としての品位品格を高め、規範意識の醸成に努める。礼節と規律を重んじる生徒
- (2)学力の向上を目指して、向上心あふれる生徒
- (3)地域に愛され、信頼される学校づくりに努める。自ら進んで社会に貢献しようとする正しい勤労観をもった人材

目指す生徒像に対する課題

- おとなしくまじめな平均的な生徒をもっと伸ばすことはできないか
- 子どもたちの目標を明確化できないか

「自らを高めること」と「社会に役立つこと」を基本的視点とした人間像の実現

取り組み内容

普通科におけるキャリア教育の教育課程の研究開発
3年間キャリア教育の授業「キャリアデザイン」を毎週実施

- 学びの場づくり → 相互理解を深め、安心して学びあえる関係作り
- グループ学習の多用 → 全員に役割意識をもたせた協同
- 発表機会の増加 → 少人数で発表し合い、手応えを感じやすく など

※平成26年度をもって研究開発学校の指定期間終了
取り組みを精選し総合的な学習の時間に移行中

取り組みによる効果

- ★生徒に積極的・主体的な行動が見られるようになった
- ★基礎的・汎用的能力に関する生徒アンケートで、多くの項目が上昇
- ★国公立大学進学者数が3倍に増加

では特に次の3点に配慮している。

1つめは「学びの場づくり」だ。1学年の最初にワークショップ「あなたの宝物は何ですか」を実施。宝物をこれまでのキャリアの象徴としてクラスメイトに説明することで、相互理解を深め、安心して学び合える人間関係を築いている。入学後の早い段階での場づくりが肝心だという。

2つめは全員に役割意識をもたせることだ。グループ活動では、各自が進行者や記録係などの役割をもつて進める。また、全員がそれぞれの個性を生かして頑張ったことを確認し合う工夫もある。

例えば、2学年の「修学旅行調べ学習」の最後には、メンバーそれぞれがどう貢献したか、「率いる力」「和す力」「創る力」など8つの力から選んで相互評価を行っている(図2)。

3つめは全員に発言・発表機会を与えること。これまでの同校では生徒が発表する機会はほとんどなかった。しかし、「キャリアデザイン」では少人数の話し合い活動や、個人作業を持ち寄ってグループで共有する時間が多い。例えば、「資格と職業」の職業人インタビューでは、個人で希望職種と関連する職業人にインタビューを行って原稿をまとめるが、それ

学校data

1949年創立／普通科・商業科・情報処理科／生徒数952人(うち男子328人・女子624人)／進路状況(2015年3月実績)大学129人・短大31人・専門学校50人・就職97人・その他8人
★平成24～26年度文科省研究開発学校指定



教務主任
竹内道治先生

図2 「修学旅行調べ学習」のワークシート



班員の一人ひとりについて、「率いる力」「和す力」「関わる力」などから発揮した力を2〜3つ選んで○をつける

図1 「キャリアデザイン」の概要

1学年「キャリアデザインI」	
テーマ：自分探し ○広い視野に立って自らを高め、社会に役立つ人間として生きていこうとする態度を育てる ○勤労観・職業観等の価値観の形成・確立を図る	主な演習 ●ワークショップ「あなたの宝物は何ですか」 ●学問研究 ●資格と職業 ●地域の福祉と防災 ●地域の産業・文化
2学年「キャリアデザインII」	
テーマ：生き方の発見 ○進路を実現するための諸条件や課題を理解する ○今取り組むべき学習や活動を実行に移す力を高める ○勤労観・職業観等の価値観を形成する	主な演習 ●志望校を考えよう ●課題学習 ●修学旅行調べ学習 ●修学旅行班別学習 ●キャリアプランニング
3学年「キャリアデザインIII」	
テーマ：社会の中の自分 ○他者を理解し、自己との差異を認め受容する態度を身に付ける ○自己の適性や能力を的確に判断する能力を高める ○勤労観・職業観等の価値観を確立する	主な演習 ●講座別学習(文章表現実践、スポーツ学実践、統計学研究など) ●キャリアプランニング ●表彰規定を作ろう ●案内文書を作ろう



「あなたの宝物は何ですか」では、グループ内で1人ずつ自分の宝物を見せながら発表



修学旅行調べ学習の発表会。5人グループが協力して訪問先について調べ、全員で発表

図3 生徒対象のキャリア教育アンケート結果より

基礎的・汎用的能力	要素(一部)	2012年度入学 (キャリアデザイン導入後)		10年度入学 (同導入前)
		1年次 (13年1月)	3年次 (15年1月)	3年次 (13年1月)
人間関係形成・社会形成能力	他者の個性を理解する力	93%	99%	91%
	コミュニケーションスキル	80%	95%	76%
自己理解・自己管理能力	自己の動機付け	68%	84%	76%
	主体的行動	60%	75%	68%
課題対応能力	情報の理解・選択・処理等	59%	86%	58%
	課題発見	75%	86%	43%
キャリアプランニング能力	将来設計	58%	82%	58%
	行動・改善	52%	83%	70%

※表は普通科のみ。キャリア教育アンケートを「基礎的・汎用的能力」の各要素に位置つけたものから、8項目を抜粋して掲載。数値は「当てはまる」「やや当てはまる」の回答率

をグループで発表し合う。少人数の中で行うほうが、相手に認められたという手応えを感じやすく、自己肯定感に効果があるという。

「生徒は中学まででグループ学習には慣れていたので、最初から協同する学習スタイルで取り組めば、『キャリアデザイン』の授業がスムーズに進むようになります。時間が空いて途中からの導入ではこううまくはいかないでしょうから、すみやかな接続がカギです」(竹内先生)

生徒の内面が成長し
国立大学進学者3倍に

3年間の「キャリアデザイン」を受けた

学年が、今春初めて卒業した。普通科の国立大学進学者数は16人で、例年の3倍だった。同校は高い進学実績の理由について、教員が連携して実施した「キャリアデザイン」により、教員の風通しが良くなって生徒情報の共有が進んだことや、これまでにない生徒の成長を促せたからだと考えている。

「生徒同士の仲が良く先生との距離も近いという雰囲気の中、自分の意見を言えなかった生徒が言えるようになったり、より良いものを目指して自ら動いたり、さまざまなことを頑張れるようになったと感じています」(竹内先生)

定期的に生徒に実施している、基礎

3年間の「キャリアデザイン」について生徒の振り返り

- 少しずつだけれど友達と協力しながらやることで楽しく感じられるようになり、思いどおりできなくてもずいぶんめぐることはせずに、時間がかかりながらも、時々友達の助けを得ながら自分でがんばろうと意欲をもてるようになりました。
- キャリアデザインの中で多かった1つがグループ活動で、その中で自分が班のために何ができるのか考え、行動できるようになりました。また、分担された仕事でなくても、積極的に協力するようになりました。(後略)
- 私は今まで人前に立って発表することが苦手で、自分の意見を主張することが苦手でした。しかし、「キャリアデザイン」では、他の授業と違い、自主的に人前に出て自分の意見を発表する機会が多かったです。初めの頃は「自分の意見が否定されたら嫌だな…」と思い、思うことがあっても黙っていることが多かったのですが、クラスメイトと話し合いをする時に、自分の意見が役に立った時がありました。その時、友人たちの役に立てて嬉しくなると同時に、「言うてよかった」と思えるようになって以来、自分の意見をしっかりと伝えるようになりました。(中略)私はこの授業を通して、今の自分を改めて見つめることができ、そして、少しその自分から進化したような気がしています。(中略)この貴重な数々の経験をいかし、もっと自分が自分らしく生きることができるような人生の選択をしていきたいと思っています。

Editor's Eye

既存プログラムのひと工夫で効果的に

「キャリアデザイン」は自己肯定感を目的にプログラム設計したわけではない。しかし、生徒が一人ひとり役割をもって取り組み、発言・発表する機会の多いグループ学習を継続的に実施することで、生徒は自信を高めていった。従来から実施しているキャリア教育を、より生徒の自己肯定感に働きかける実践にするためには、こうした同校の手法がヒントになりそうだ。

さまざまな面で生かされている。

研究開発学校が終了した今年度の1学年からは、「キャリアデザイン」は内容を精選して総合的な学習の時間の中で実施している。規模は縮小されたが、「キャリアデザイン」を担当した教員が自身の専門教科の授業の中でグループ学習を取り入れるなど、3年間の成果はさまざまな面で生かされている。